

令和5年度 鯖江高等学校(全日制) 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題(令和5年度)	改善策・向上策(令和6年度)
1 教育課程 学習指導 研修	<p>具体的取組</p> <p>a 授業、家庭学習の充実に努め、一人ひとりの学力を高める。 目標: 授業の理解度、分かりやすい授業の指数80%以上</p> <p>b 学習手帳「みのり」を活用し、家庭学習の習慣を定着させる。 目標: 家庭学習の定着に関する指数70%以上</p> <p>c ICTを活用する授業改善に努め、授業力を高める。 目標: ICT活用に関する目標指数70%以上</p>	<p>・授業理解と家庭学習の定着について 生徒の授業内容の理解度は年々高くなっており、どの学年も90%を超える。しかし、保護者の認識では昨年よりも下がっており、1年生は80%を超えているが、2年生と3年生は70%を下回り、目標に届いていない。 平日に1時間以上の家庭学習を行っているとは回答しているのは、1年生36%、2年生39%、3年生56%で、昨年度を下回った。しかし、親の回答では生徒の回答よりも10%ほど上回っており、生徒と親の回答がずれている。</p> <p>・授業改善について プロジェクターを使い、資料集のグラフの解説、実験動画、題材のイメージを膨らませるための写真や動画、生徒のノート、グループ活動の結果発表、公式や文法を常に表示するなど、各教科・教員による積極的な利用が年々伸びてきている。</p>	<p>・授業理解と家庭学習の定着について ほとんどの生徒は授業が理解できていると回答しているが、授業が理解できないと答えた生徒に対しては、個別指導や学習会を行うことで、理解度をupさせたい。 家庭学習の定着は、まだまだ目標の数字に届いていない。個人面談や家庭との連絡を密にするなどして、家庭での過ごし方の改善に努めたい。また、課題の内容を吟味して取り組みやすくなるよう工夫したい。</p> <p>・授業改善について ICT機器の利用は年々上がっている。来年度についても、授業力向上を目指し、毎学期に授業公開週間(2週間)を実施する。また、各教科の中で授業研究を進める。ICTについて、授業公開週間等を通じて、他の教科や教員のICT活用方法を学び、方法の幅を広げ授業改善に役立てていく。また、ICT利用における教材の共有化を今後も継続して行っていく。</p>
2 生徒指導	<p>具体的取組</p> <p>a 正しい服装容儀を身につけさせるため、定期的に容儀検査、登下校指導を実施し、個別指導を徹底する。 目標: 正しい服装容儀に関する目標指数95%以上</p> <p>具体的取組</p> <p>b 保護者との連携(保護者懇談、家庭訪問)を通して、遅刻者数を減らす。 目標: 遅刻に関する目標指数95%以上</p> <p>具体的取組</p> <p>c 生徒間の支え合いを通じて、いじめ・問題行動の防止に取り組む。 目標: 啓発、指導に関する目標指数90%以上 目標: 思いやり・助け合いに関する目標指数80%以上</p>	<p>生活指導部の取り組みの重点目標として例年同様、「正しい服装容儀を身につける」とした。例年、年間8回の風紀検査を今年度は年間6回に減らしたが、保護者に対するアンケート結果では、「服装容儀を守っている(A+B)」が、97.6%(昨年度97.7%)と高い評価で、目標指数の95%以上を達成した。また、生徒が「風紀検査の再検査で不合格になった回数が年間1回以内(A+B)」は、96.5%(昨年度96.0%)と微増しているが、正しい服装容儀を守ることに対する意識が低いようにみえる。</p> <p>アンケートの結果では、生徒は「不注意による遅刻の回数が年間 A 0回が76.5%、B 1回～3回が17.8%」と、3回以下(A+B)が94.3%(昨年度95.9%)で、目標指数の95%を下回った。保護者は「登校時間を守っている(A+B)」が、94.9%(昨年度94.2%)と目標指数の95%を2年連続で下回った。生徒会の活動(あいさつ運動)も効果があまり見えないでいる。</p> <p>「思いやりや助け合いの心を持って人に接しているか」の質問に対して、「できている(A+B)」は、保護者が94.1%(=33.2%+60.9%)、生徒が96.5%(=49.3%+47.2%)と、目標指数の90.0%は上回っているが、「大変よくできている(A)」の回答は、ともに50.0%を切っている観点であることは、注意しておきたい。 「みのり」を通して生徒からの声を聞いたり、いじめアンケートの実施結果により、いじめがあった場合は、担任、学年主任、教育相談担当者等と生活指導部が、連携を取って対応し、大きいいじめに発展することを防ぐことができた。</p>	<p>例年、年間8回の風紀検査を今年度は年間6回に減らしたが、評価はよい傾向が継続している。教員に対するアンケート「服装・頭髪が気になる生徒に対して」でも、「その都度積極的に指導した、まあまあ指導した(A+B)」という回答が、92.0%(昨年度90.7%)と増加している。今年度は、生徒会執行部員と風紀委員による、ミニ風紀検査を実施していないので、生徒自身の意識を高めるためにも、生徒会に企画させるのはどうか。また、来年度は積極的に大意果敢に集会させて風紀検査を実施する予定である。風紀検査不合格回数が多い一部生徒に対して、生活指導部・担任・保護者との密な連携を図り指導することで、正しい服装容儀での学校生活を徹底させる。</p> <p>遅刻者の延べ人数を減らすために、教職員の協力による登校指導(朝当番)を継続し、いろいろな先生方から生徒に対して声かけを積極的に繰り返す。また、生徒会執行部の生徒と協力し、予鈴前登校の活動(あいさつ運動)も継続する。あわせて、保護者との連携(保護者連絡・懇談会等)をとおして、遅刻者を減らす。</p> <p>教員に対するアンケートにおいて「生徒に思いやりや助け合いの心を持って人に接するなどの指導や積極的な生徒の声かけを行った(A+B)」は、100.0%(昨年度100.0%)で、教員一人一人の意識も高まっている。 いじめ・不登校・問題行動について、今後も発生した際には、マニュアルに従い、関係する教員間の連携、保護者との連携を密にとって迅速に対応し、問題点を追及して防止できるよう取り組んでいく。</p>
3 進路指導	<p>具体的取組</p> <p>a 進路学習などを通して、生徒の実態に即した進路情報を提供し、適性にあった進路目標の早期設定に努める。 目標: ①進路情報の満足度に関する目標指数90%以上 ②進路目標の設定など進路意識に関する目標指数90%以上</p>	<p>アンケートの結果、「必要な進路情報を入手できた」との回答がA+Bで生徒が86.5%、保護者が93.8%で、生徒の数値が目標を下回ったものの、昨年より数値は上がった(昨年は85.0%)。3年生の生徒に限れば数値は94%となっており、1、2年の数値を上げることが課題と言える。一方保護者に関しては全学年とも90%を超えており、満足度は極めて高くなっている。進路情報誌の配付や外部講師を招いた講演、オンラインによる進路ガイダンスや保護者対象分野別説明会などを実施した結果と思われる。今後も継続し、さらに効果をあげたい。 「進路目標の設定」に関する調査はA+Bで生徒が88.9%、保護者が92.4%でここでも保護者が高い割合を占めている。生徒については、学年ごとに意識差が現れており、1年生84.3%、2年生90.0%、3年生93.6%となっている。ここでも1年の数値をどのように上げていくかが課題と言える。とはいえ、1年生は昨年を超えており(昨年81.9%)、2年生も昨年より数値は大きく上がった(昨年83.3%)。全体的に見れば、進路指導部・担任を中心に、ロングホームや学年集会などを利用して進路意識の向上に努めた結果が現れたと言える。</p>	<p>生徒の進路情報の提供に対する評価が、3年生と比べて1、2年生がやや低い傾向にある。今年は全学年が新体制となって2年目となるが、昨年度、今年度の結果を踏まえ、今後より具体的に詳しい進路情報をタイミング良く提供し、多様な進路希望を持った生徒に対応していくことが必要となる。 また、昨年同様に担任との連携を密にして、総合的な探究の時間やスタディーサポートの結果を利用し、進学・就職の意義をより深く理解させ、生徒の進路に向けての意欲を高める。また、課外授業、模擬試験の重要性を理解させ、模擬試験の事前指導、事後指導を行うに当たり、デジタルサービス等の活用法を担任・生徒に周知し、充実した進路指導に努める。</p>

<p>3 進路指導</p>	<p>b 就職・進学試験に向けて全校体制で実施している面接指導・作文指導を充実させる。 目標：面接・作文指導に関する目標指数が95%以上</p>	<p>この項目における評価は面接・作文指導が「大いに役立っている」「概ね役立っている(行っている)」の合計が生徒が96%、保護者が95.2%と大変高く評価している。今年度も、就職希望者には2学年の3学期から少しずつ指導を行い、3年になってからは求人票の見方や履歴書の書き方、面接指導などを就職コーディネーターにも協力してもらい指導を行った。また2年生の就職・専門学校希望者に対して夏休みに地元の企業見学を実施した。さらに警察、消防、自衛隊を希望する生徒に対する校内説明会を3年生だけでなく2年生も対象にした。進学希望者には担任や学年会による面接・小論文の指導を高校総体後の3年6月から実施し、9月からは全教員が数名の生徒を担当し、個別の面接・小論文指導を行った。 全校体制での指導の形態は例年確立されており、特にベテラン教員と若手教員のペアや異なる教科でグループを作って行う模擬面接は大きな成果を上げている。ほとんどの教員が「積極的に指導した・まあまあ指導した」と答えており、積極的な姿勢で取り組めた。今後もこの指導体制を続けていきたい。</p>	<p>生徒数の増加と進路希望の多様化に伴い、今後本校はさらに個に即した進路指導が必要となると思われる。進学については共通テスト受験を始め、総合型選抜や学校推薦型選抜で各種学校に進学する生徒が増えている。就職希望の生徒も今後増加が予想される。夏休みの企業見学や自衛隊・警察・消防の校内説明会を1、2年生も対象にするなどの早めの意識付けを継続する。 進学希望者に対する面接指導についても生徒や保護者から高い評価を得ているので、来年度も改善できるところは改善して引き続き行いたい。また、可能な限り、大学実施のオープンキャンパスや医療体験・ボランティア活動に積極的な参加を促し、志望動機や小論文・面接での内容の充実を図りたい。</p>
<p>4 保健・安全管理</p>	<p>具体的取組 a 健康管理について生徒に啓発を行うとともに、その指導を充実させる。 目標：日常の健康管理についての啓発、指導に関する目標指数90%以上 b 安全・美化に対する意識を高める指導を充実させる。 目標：安全で快適に生活することについての目標指数90%以上 c 悩みなどの相談について適切に対応する。 目標：悩みなどの相談についての目標指数90%以上</p>	<p>教職員・生徒・保護者を全体で見ると、ほとんどの項目で昨年度より評価を下げている。 a)健康管理の指導に関しては、コロナの5類引き下げによる感染対策に対する気の緩みとその要因としてあげられる。教職員側の指導状況が昨年比8ポイント減となっているのがその現れであろう。但し、生徒側からみた評価は1.6ポイント増となっている。これらのことから、生徒が自分の健康管理についてより関心をもつようになったと考えられる。 b)安全・美化に対する指導・意識に関しては、教職員側からの指導状況は昨年と変わらないのに対し、生徒や保護者側からみた評価はポイント数を下げている。 c)生徒が困った時の対応に関しては、教職員・生徒側からみた評価は微減であるが、保護者側からみた評価は昨年比4.2ポイント減と大幅に減っている。教職員側の多忙化や、クラス人員の増加により、一人一人に対する心のケアや、予防的対策を施す機会が物理的に減ってきている状況があると考えられる。</p>	<p>a)・b)コロナ5類引き下げに引きずられることなく、インフルエンザやノロウイルス感染症に対する注意喚起を徹底するとともに、感染しない・させないための策を講じ、積極的に生徒・保護者および教職員に周知することが重要である。また、一クラスあたりの生徒数が増えてきているので、これまで以上に換気の状態に気を配り、保健委員会などを通じた啓蒙活動を行うとともに、授業担当者の換気に対する意識を向上させることが必要である。 c)生徒一人一人の心の悩みについては、相談室や担任および部活動顧問がかなり気を配って対応しており、各間での連携もしっかりととれている。しかし、家庭環境などの様々な問題を抱えた状態で入学してくる生徒や、発達障害等の診断を受けた生徒の数が年々増加している状況から、教職員がじっくりと相談に乗るための施設や時間が不足していることも現実である。こうした物理的な問題を解決することが喫緊の課題であるとする。その上で、相談室がイニシアティブをとり、教職員に対する研修会やケース会議などを実施することによって、生徒と対面する個々の教職員の理解とスキルを向上させていくことが重要であるとする。</p>
<p>5 図書指導</p>	<p>具体的取組 a 読書意欲を啓発し、図書館利用を促進する 目標：①読書意欲の啓発に関する目標指数が80%以上 ②読書に親しむことに関する目標指数が70%以上</p>	<p>生徒の年間読書量について「私の読書量」は、1年間で「A(5冊以上)B(3～4冊)」と答えた生徒は昨年度52.3%から本年度51.9%とわずかではあるが低下し、目標の70%を下回った。しかし、1冊以上読んだ生徒は83.4%から91.4%と増加し、学校図書館利用率も入館者1.3倍・貸出数1.4倍と増加している。このことから、少しずつではあるが本や図書館に親しむ傾向になっていっていると考えられる。また、教員による読書意欲の啓発は80.0%(目標の80%)と、昨年度とほぼ同じであった。授業での図書館利用は124時間あり、昨年度から1.24倍増加している。 保護者の「お子さんは、広い意味での読書(新聞・書籍・電子書籍など)に親しんでいる。どちらかと言えば親しんでいる。」との回答は55.1%と、前年度とほぼ同じである。今後は家庭での読書環境サポートも行っていきたい。</p>	<p>3年間実施した毎日の朝読書から、毎学期の学期末考査後の朝読書に戻した1年目であるが、継続して各クラスに20冊程度の書籍を配置するなど、読書活動を支援している。また、図書委員の活動は毎月様々なイベントを実施したり、放送を使って広報を行ったり多岐にわたっている。その結果、不読者数(本校の図書館資料を借りていない数)は18%だった昨年より10.1%と減少し、効果をあげている。さらに、「読む力」だけでなく「書く力」「まとめる力」をつけるためのワークシートを図書館で準備しているが、授業や週課題・クラスなどで利用の機会が増え、個人で取り組む生徒も出てきている。 学校図書館としてどのようなサポートができるか、常にアンテナを高くし蔵書構成を考え、多岐にわたるレファレンスサービスに応じられるよう、運営を続けていく。</p>
<p>6 地域に根ざした学校づくり</p>	<p>具体的取組 a 地域の文化や産業を題材とした探究活動を推進する。 目標：探究活動に関する目標指数70%以上 b ホームページの充実を図り、保護者や地域への情報発信に努める。学校祭などで保護者等に学校を公開する。 目標：①ホームページの更新、内容に関する指数70%以上</p>	<p>地域の文化や産業を題材とした探究活動を推進していく活動について、教員が授業で地域教材を活用した結果が(A+B)で50.0%で、昨年度よりも10.5%上昇したが、一昨年以前の結果には達していない。また保護者が生徒と地域の話について話している結果も(A+B)で51.9%で昨年度とほぼ同じであるが、これも一昨年度以前の結果には達していない。生徒が地域のことに興味を持つようになった結果は(A+B)で64.7%と比較的高い割合を示しているが、昨年度よりも微減している。これは鯖江市および鯖江商工会議所と連携した活動が定着してきており、教員が授業で地域教材を扱う頻度は高まったが、生徒たちはその活動に慣れてきて、新たに興味を持つことが少なくなってきたことが影響しているのかと思われる。 個々の教員がホームページ更新に協力する割合は60.0%と、前年度の27.9%から倍増した。これは、今年度から図書広報部がホームページ更新を担当するようになり、ホームページ更新にかかる個々の教員の負担が減り、それぞれ担当する分野の情報を気軽に発信できる環境が整ってきたことが要因として考えられる。 保護者の「学校はホームページの充実につとめていると思う。」について、よく当てはまる・やや当てはまるが、68.9%と、前年度の66.5%からわずかではあるが増加した。学校行事や部活動などの情報を逐次発信してきた成果であろう。また、「ホームページを見たことがないのでわからない」と回答している保護者が全校13.1%と、前年度の8.4%から4.6ポイント増えた。今後も保護者にホームページを見てもらえるような啓発活動を行いたい。</p>	<p>鯖江市および鯖江商工会議所との連携を活かして、これまでに様々な活動を実施してきた活動を定着させ、さらによりよい活動ができるように内容を見直しをしていくとともに、新たな活動を模索し、生徒の興味・関心や進路などの目標に沿ったものを計画していく。また、より多くの生徒が参加できるように、活動内容を考えると同時に、広報活動や環境づくりをして、生徒が地域のことに興味・関心をもつ意識を育てていきたい。 ホームページを見る機会を増やすために、新着情報だけでなく、学科・コースの特色ある活動や学校行事、部活動など興味のある情報を掲載し、更新頻度をさらに上げて保護者・地域の方がホームページから鯖江高校の情報を閲覧できるように努める。</p>